

絵入り物語本の愉しみ

黄金時代の英米挿絵本

テキストはイメージ挿絵と共鳴し、時空を超える

『不思議の国のアリス』に挿絵を付けたテニエル以来、数々のイラストレータが19世紀末から20世紀前期にかけて、さまざまな神話や伝説、物語に挿絵を描きました。ドレ、クレイン、グリーンエイ、ラッカム、ピアズレイ、デュラック、ニールセン、クラークなどがそうです。それらは19世紀半ばから数十年間に最盛期に達しました。その当時の絵入り物語が最近日本で翻訳されたり、またその挿絵集が出されたりしています。中央図書館展示スペースで3月8日(金)から開催される「泰西絵入り物語」展では、それら黄金時代の挿絵本を集めていますが、それに因んださまざまな本を紹介します。



講師 澁川 雅俊 氏

1938年生まれ。会津若松市出身。慶応義塾大学文学部図書館学科卒業後、慶応義塾に勤務して図書館業務に携わり、大学メディアネット事務長などを歴任。96～04年まで慶応義塾大学環境情報学部教授。六本木ライブラリー・フェロー。

平成 25年 3月 9日(土)

午後 3時から 5時 (開場 2時 45分)

会場 杉並区立中央図書館地下1階視聴覚ホール

対象 高校生以上

定員 先着40名 (要事前申込み)

参加ご希望の方は、電話か中央図書館カウンターでお申し込みください。

申し込み・問い合わせ先 杉並区立中央図書館(杉並区荻窪 3-40-23) 03-3391-5754

3 / 8 (金) - 4 / 3 (水)

中央図書館1Fにて、本ブックトーク関連「泰西絵入り物語」展を開催